

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和4年6月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケートで情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。

この度、令和4年6月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気の現状判断DIは前回調査から上昇 ～

区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出している。
	6月調査結果	前回調査との差	6月調査結果	前回調査との差	
県全体	55.3	+16.7	51.7	+5.1	<参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
県北	52.3	(+12.7)	50.5	(+6.6)	
県央	56.8	(+22.9)	58.5	(+9.4)	
鹿行	55.7	+14.2	50.9	+1.8	
県南	59.4	+20.1	53.6	+6.3	
県西	52.2	+13.6	44.7	+1.3	

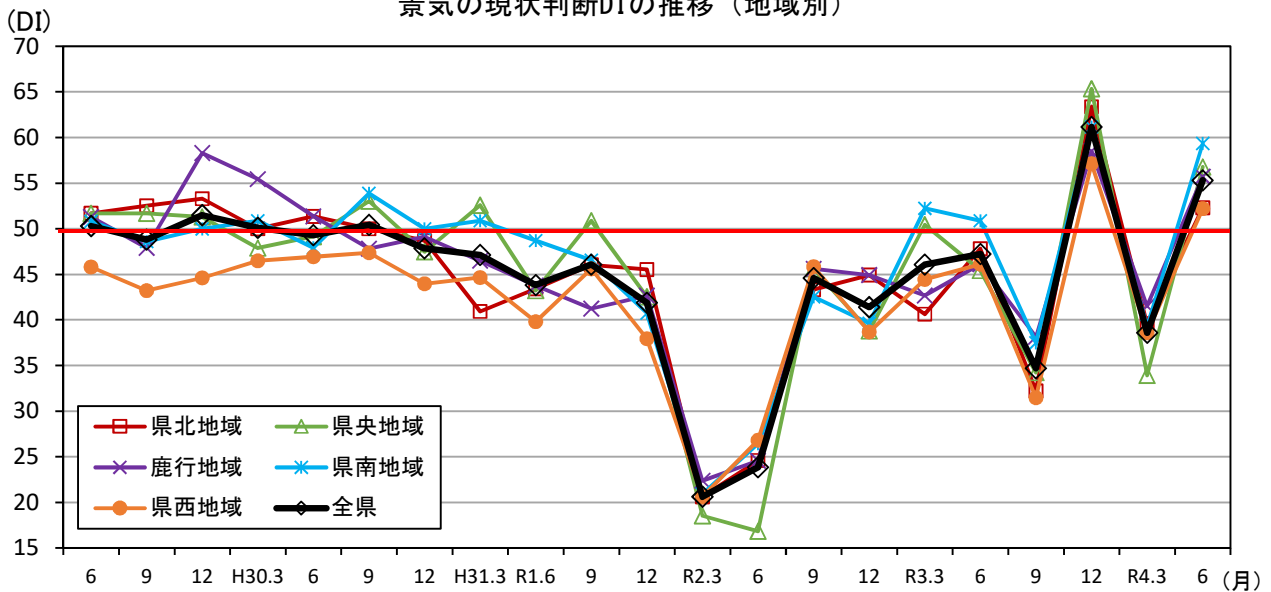
☆ここがポイント

○県全体の景気現状判断DIは前回調査から上昇し、2期ぶりに50を上回った。先行き判断DIについても2期ぶりに50を上回った。

○ウォッチャーからは、現状判断では新型コロナウイルスに関するコメントが、先行き判断では商品等の値上げや新型コロナウイルスに関するコメントが多く寄せられた。

※かっこ内は参考値（地域区分内の構成市町村変更のため）

景気の現状判断DIの推移（地域別）



[調査の概要]

- ・ 調査客体数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気の判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和4年6月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 94.3%（300名中283名から回答）

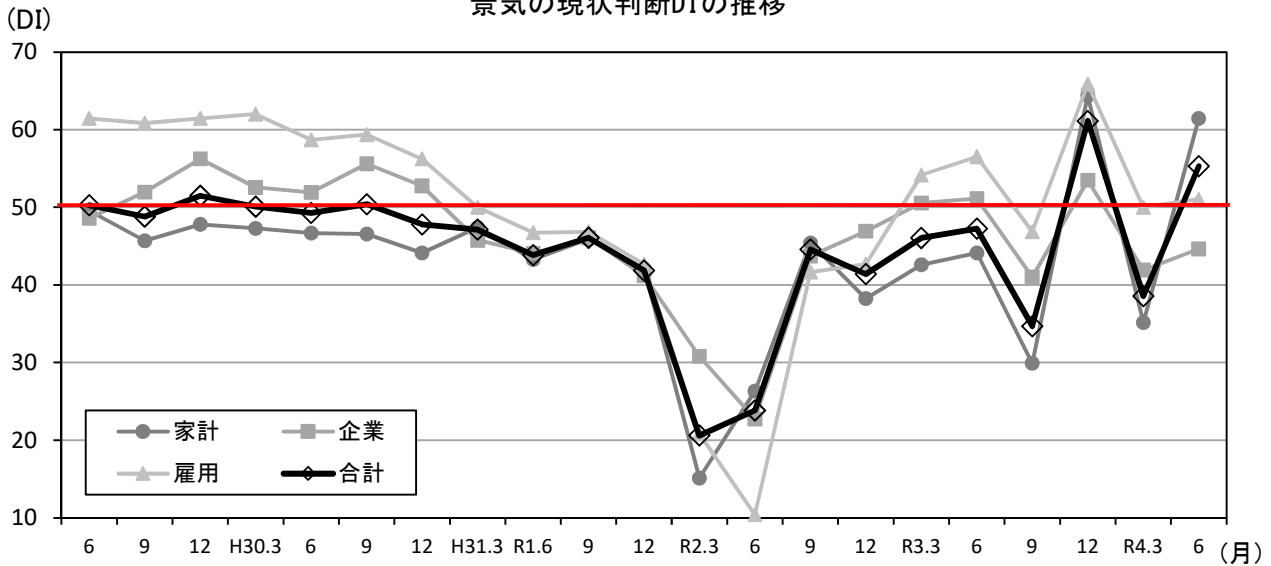
（地域区分）
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

※今回調査から、ひたちなか市、那珂市、東海村の地域区分を県北地域から県央地域に変更した。このため、本報告書内の県北・県央地域の前回調査とのポイント差は参考値となる。

2 県全体の動向

(1) 現状判断DI

景気の現状判断DIの推移



分野	調査年月	令和3年 6月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月
合計		47.3	34.7	61.2	38.6	55.3
家計動向関連		44.1	29.9	64.4	35.2	61.5
小売関連		38.7	29.3	53.2	33.6	54.9
飲食関連		42.7	12.5	72.7	27.2	68.8
サービス関連		49.7	33.1	75.4	38.5	67.0
住宅関連		44.4	50.0	46.9	40.6	46.9
企業動向関連		51.1	41.0	53.5	42.0	44.7
農林水産業		54.2	45.8	57.1	34.4	34.4
製造業		49.5	38.5	53.1	41.7	43.1
非製造業		52.9	43.6	53.2	44.1	49.3
雇用関連		56.5	46.9	65.9	50.0	51.0

景気の現状判断DIは55.3となりました。前回調査より16.7ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より26.3ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より2.7ポイント上昇したものの、2期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より1.0ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

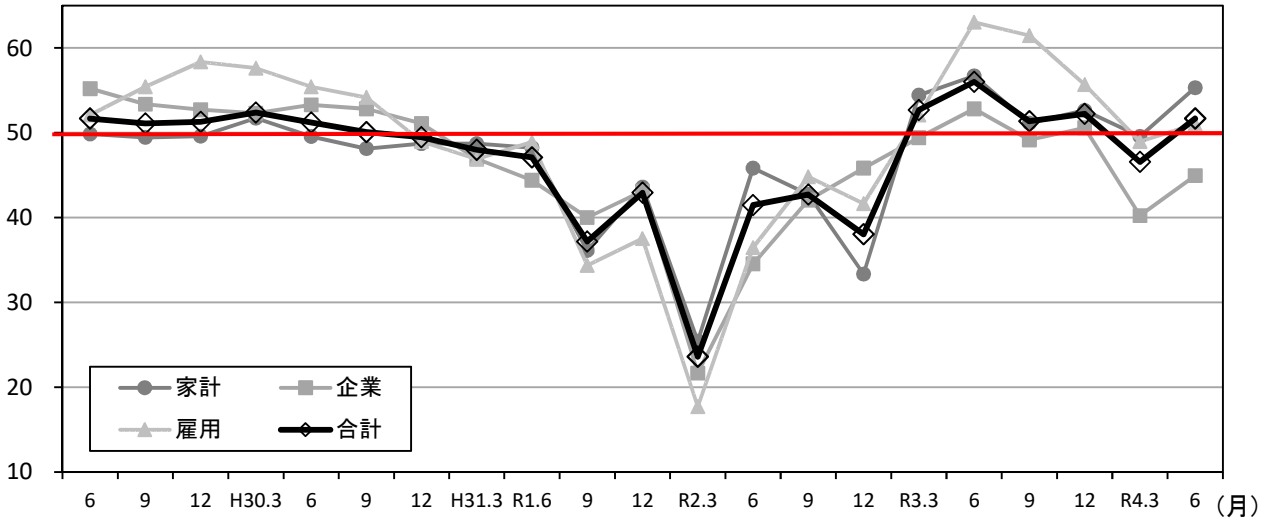
《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(県北：製造業(精密機器)) コロナ禍で滞っていた物流が少し動き出しているため、良くなっていると判断した。
- ・(県央：求人開拓員) 当所を利用する利用者の人数、取扱をした求人件数・人数共に明確な変化はみられない。
- ・(鹿行：運転代行) 多少売上げが伸びてきているので、景気はやや良くなっていると判断した。週末の予約も増えてきている。
- ・(県南：サービスエリア) まん延防止等重点措置解除辺りから、外出自粛の雰囲気がかなり緩和され、観光利用の客が増加している。GW後もバスによる旅行客、学生スポーツの団体等による立ち寄りが、平日休日問わず見られるため、良くなっていると判断した。
- ・(県西：製造業(金属製品)) 原材料の高騰、電材部品の納入遅れなどの影響で、やや悪くなっていると判断した。

(2) 先行き判断DI

景気の先行き判断DIの推移

(DI)



分野	調査年月	令和3年6月	令和3年9月	令和3年12月	令和4年3月	令和4年6月
合計		56.0	51.4	52.2	46.6	51.7
家計動向関連		56.7	51.1	52.6	49.5	55.3
小売関連		52.1	48.6	49.6	48.4	47.0
飲食関連		58.3	46.6	58.0	46.6	71.3
サービス関連		63.7	56.8	54.7	52.1	61.0
住宅関連		30.6	33.3	46.9	43.8	31.3
企業動向関連		52.8	49.2	50.6	40.2	44.9
農林水産業		50.0	41.7	50.0	31.3	28.1
製造業		53.1	47.4	48.4	40.0	46.3
非製造業		52.9	52.9	54.0	42.6	47.1
雇用関連		63.0	61.5	55.7	49.0	51.0

景気の先行き判断DIは51.7となりました。前回調査より5.1ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より5.8ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より4.7ポイント上昇したものの、2期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より2.0ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (県北：観光型ホテル) 旅行や会食の予約が増え続けている。ワクチン接種も複数回接種が当たり前になり、以前より安心して外出できる雰囲気になっているため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (県央：人材派遣業) 今後も受注は増えていくと思われるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (鹿行：旅行代理店) コロナ禍がだいぶ落ち着いてきて、団体旅行が増えてきたため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (県南：公共職業安定所) 新型コロナウイルスやウクライナ情勢が雇用に与える影響など先行きが見通せないため、変わらないと判断する。
- ・ (県西：不動産業) 建築費をはじめとする物価高で消費者心理が冷え込んでいるため、やや悪くなっていると判断する。

3 地域別の動向（※調査結果はP.1参照）

（1）県北地域

- ① **現状判断：** 景気の現状判断DIは52.3となりました。前回調査より12.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました（参考値）。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（観光型ホテル）宿泊客数が3か月前の1.5倍になっており、日帰り宴会の利用客数も3か月前の約5倍に増えている。規制等がなくなったことにより、以前よりも外出や旅行へ気軽に行ける雰囲気になりつつあるため、やや良くなっていると判断した。
- ・（製造業(精密機器)）部材の入手困難の状況は続いてはいるが、受注がコロナ禍以前の状況に戻っているため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは50.5となりました。前回調査より6.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期ぶりに上回りました（参考値）。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（旅行代理店）企業・学校など団体からの問合せが、日帰りではあるが増えてきているため、やや良くなっていると判断する。ただし、宿泊を伴う研修、旅行等はまだ様子見の状況。
- ・（建設業）コロナ禍の影響で半導体などの供給不足がまだ続くと思うので、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（製造業(化学工業)）外国人の顧客が会社に訪問するようになった。今後のインバウンドの回復にも期待ができる。
- ・（学校就業関係者）食料品・原油等の価格上昇や、ウクライナ情勢・円安など景気に不安を感じる。

（2）県央地域

- ① **現状判断：** 景気の現状判断DIは56.8となりました。前回調査より22.9ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました（参考値）。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（バス運転手）GW時に人の動きが活発になった後の感染者増が懸念されたが、現時点ではその兆候もなく、東京方面へ行き来する人の数も週末を中心に増えているため、良くなっていると判断した。
- ・（楽器販売）GW明けから、少し高額の商品に動きが出てきている。見積り相談や正式な発注まで出ており、市場が動き出している感があるため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは58.5となりました。前回調査より9.4ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました（参考値）。

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（運輸業(道路貨物運送業)）上海ロックダウンの解消に伴い、滞留傾向にあった輸出入貨物の増加があると思われるため、やや良くなっていると判断する。
- ・（観光名所）8・9月の問合せや予約が増えてきているので、3か月後の景気はやや良くなっていると思う。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント（抜粋）》

- ・（タクシー会社）高齢者の外出タクシー利用が増加傾向にある。病院等の送迎は以前とあまり変化がなかったが、買物送迎や飲食店への送迎、娯楽施設等への送迎が増加している。また、県外の観光地への送迎予約も徐々に増えてきている。
- ・（不動産業）材料費高による価格高の中、不動産関係購入はより慎重になっているように思われる。

(3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは55.7となりました。前回調査より14.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (コンビニエンスストア) まん延防止等重点措置が解除になり、人の動きが活発になってきたため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (公共職業安定所) 新規求人数が少しずつ増加してきている。雇用調整の動きが規模、件数ともに減少傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは50.9となりました。前回調査より1.8ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (割烹料理店) 徐々に制限は解除されてはいるが、飲食店で宴会ができるようにならないと変わらない。
- ・ (サービス業(会計事務所)) 新型コロナウイルスが落ち着いてきたことにより飲食店等の営業が再開され、消費が回復に向かいつつあると思われる。しかし、食料品や燃料費等の値上がりにより原価や経費が増加している状況が続くと思うので、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (金融業) 住宅建築業者(特に工務店等)は価格転嫁出来ていない様子。原材料の高騰により見積りが遅延している。
- ・ (公共職業安定所) 雇用調整の動きが減少傾向にある一方で、新たに雇用調整を行おうとする事業所もあり、景気回復の動きにばらつきがある。

(4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは59.4となりました。前回調査より20.1ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (タクシー運転手) コロナ禍で外出を控えていた方が出歩いて、街も活気が出て来ているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (製造業(窯業・土石製品)) まん延防止等重点措置期間中は売上げが減少していたが、解除になってから少し上昇傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは53.6となりました。前回調査より6.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (都市型ホテル) 宿泊団体(特に学生)の問合せが増えており、今月よりは良くなる見通しとなる。料金についても食事付きのため単価を設定できるので、売上げは増加する見込みとなるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (製造業(食料品)) 人の動きが活発化しているので商品が動く予想するが、原材料費・燃料費の上昇幅がどの程度まで行くのかが不安材料。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・ (農業関係者) 新型コロナウイルスの蔓延も小康状態となり、人的交流等がやや活発になってきたとは思われるが、景気の上向き迄は感じられていない。
- ・ (学校就業関係者) 物価の高騰からか、昨年と同じ内容で見積りを取っても、金額が昨年より高くなっている。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは52.2となりました。前回調査より13.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(ゴルフ場) コロナ禍の規制緩和もあり、ショッピングモールの利用客や交通量も増え、特に週末の行楽地が混雑している。ゴルフのクラブなどの購買意欲も高まり問合せも増えているため、やや良くなっていると判断した。
- ・(求人広告) 少ない予算でも広告の成果が出るようになり、その成果の先に「人流がある」「経済を回そうとしている」という様子がうかがえる。また、WEBの集客に力を入れる相談もかなり増え、経済を積極的に回そうという意志も感じられるため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは44.7となりました。前回調査より1.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(スーパー) 商品の値上げが続いており、しばらく買物はシビアになっていきそうなため、悪くなっていると判断する。
- ・(建設業) 資材の高騰は2月頃から続いているが、まだまだ来月あたりから軒並み上がるため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(レジャー施設) 新型コロナウイルスの影響で減少していた消費は戻りつつあるものの、根本の景気回復につながる消費については、節約傾向や買控えなどが見られているように思われる。
- ・(農業関係者) 食品に限らず、すべてのものが値上げ傾向であり、買控えの傾向が強く景気が良いとは言えない。

4 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ・「値上げ、高騰、上昇」に関するコメント 189件(県北:42 県央:42 鹿行:25 県南:36 県西:44)

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(日本料理店) 原材料の値上げ幅が大きく利益につながらない。人件費も高騰していく一途なので利益にはつながらないように思える。
- ・(金融業) 設備投資について計画はあるものの、半導体不足による価格高騰及び納期遅延に悩む企業が一定数見られている。

- ・「新型コロナウイルス」に関するコメント 113件(県北:19 県央:27 鹿行:20 県南:23 県西:24)

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(レジャー施設) 新型コロナウイルスが減少し、また制限が解除され人の動きが活発になった。その結果、入館者、売上げとも前年比を上回っている。土日祝日は家族連れ、子供の利用が増えたため、やや良くなっていると判断した。
- ・(製造業(飲料)) 新型コロナウイルスの状況がいまだ終わりが見えない所や、原材料の価格高騰などが見込まれると思われるので、景気はやや悪くなっていると判断する。

- ・「ロシア、ウクライナ」に関するコメント 35件(県北:6 県央:5 鹿行:11 県南:9 県西:4)

《景気ウォッチャーのコメント(抜粋)》

- ・(コンビニエンスストア) 新型コロナウイルスは一定の許容がされてきたが、ロシアのウクライナ侵攻による資源エネルギー問題、円安に伴う物価上昇により消費が鈍化する懸念があるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・(製造業(輸送用機械器具)) 円安継続、原油価格の高値継続、更にはウクライナ情勢悪化に伴う更なる材料高騰並びに部材供給逼迫懸念が払拭されておらず、依然として国内外の景気は好転の兆しが見えてこないため、変わらないと判断する。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>